

文化服装学院 2024 年度

自己点検・評価 内部評価委員による報告書

文 化 服 装 学 院
2024 年度 自己点検・評価
内部評価委員による報告書

2025 年 12 月

1 教育理念

● 1-1 学校の教育理念

1-1-1 文化服装学院の教育理念

「国際的な共創教育でファッションを通し持続可能な社会へ価値を提供できる人材を育成する」という教育理念が明示されており、人材育成の具現化に向けた学内外の取組、体験可能な環境づくりが学校全体でなされている。時代に即した本学の教育理念としてふさわしい。

2 学校運営

● 2-1 法人組織 / 2-2 学校組織

新ワークフローシステムでの申請業務範囲が拡大されたことで効率化が進み、紙面での申請書の削減や業務のスリム化等の成果が見られたことは評価できる。引き続き事務作業における負担軽減が求められる。改正私立学校法に基づき適切な対応がなされている。労働環境において多様な働き方に対応した規程の改廃は評価できるが、それに伴う労働現場の課題に対する検証が必要である。

新勤怠システムの運用によりペーパーレス化や残業数、有休数の可視化を実現したことにより、教職員の働き方を自他ともに確認できるようになり、働き方推進の一助になることに期待する。

- ・各委員会も設置目的に合わせた活動を実施し、課題改善されている。
- ・専任教員の計画的な補充については早急な対応が求められる。

● 2-3 財務状況

学園全体の資産整理や収益事業収入の増加、資金運用など、一定の成果が得られていること、補助金を活用し補助金収入を継続的に申請し獲得できていることは評価できる。しかし依然として厳しい財務状況であるため収益力向上に向けた更なる取組が必要である。

- ・特定資産の新規積立を行い、財務体質の強化を図っていることは評価できる。
- ・2024 年度でイントラマートをを用いた運用に完全移行し、滞りなく適切な運用がなされている。

● 2-4 法令等の遵守

2-4-1 諸規程の制定、学則、細則、内規等の整備

2-4-2 ハラスメント対策の状況

2-4-3 個人情報の保護

学校運営に即した学則改訂等各種規程の変更、教職員および学生に個人情報など法令を遵守した取組が実施されている。ハラスメント、個人情報の取り扱いなど、問題が多様化してきており、現状に即した対応や正しい認識を教職員全員が身につけ、トラブル防止に努める必要がある。

- ・ハラスメントに関する相談は継続的に発生しており、注力すべき事項である。今後も研修を行うことで意識改革とハラスメント防止に努める。
- ・個人情報に関して、学生・教職員共に取扱いの重要性を再認識しトラブル防止に努める。

● 2-5 社会貢献等の取組

2-5-1 活動への支援状況

2-5-2 公開講座・教育訓練等

継続的に実施している社会貢献は、日本赤十字社を介した文化祭バザー売上金の被災地への寄付や学友会の募金活動があげられる。その他、社会貢献につながる授業での取組として、産学コラボレーション活動が学外にも周知されたことは評価できる。SDGs の観点から行われているアップサイクルやリサイクルなど、企業と連携した産学コラボレーションを多数実施したことで学生の社会貢献活動への意識向上につながっているため、次年度以降も継続した取組に期待したい。

- ・オープンカレッジや通信教育の実施により、広く一般に開放された学びの場を提供していることは社会貢献に値する。

3 教育環境

● 3-1 施設・設備

3-1-1 教室・講義室・実習室・研究室・事務室の整備、使用状況

3-1-2 機材・備品の管理状況

3-1-3 IT 環境の整備・管理状況

キャンパス全体の施設・設備の維持管理と安全性確保について確認、検討がなされている。教育機器備品についても計画的な備品購入ができています。IT 環境も整いつつあるが、継続して環境整備・強化、学習環境の向上が必要である。

- ・今後は多様な状況に対応したキャンパスマスタープランが計画的に適切に実施されていくことが必要である。
- ・学園全体で教室、施設、設備の活用が潤滑に機能するような工夫がさらに必要である。

● 3-2 附属機関・施設

3-2-1 教育・学修支援

各施設が工夫を凝らし学修支援につながる取組、施設の利便性の向上や新たな展示企画、さらにデジタル化への対応や情報発信を行っている。また企業とのコラボレーションや海外提携校との関係強化など様々な取組が行われている。

- ・服飾博物館においては、インバウンドも考慮し、学内学外問わず来館者の増加を意識した展示の企画に期待したい。
- ・学生が興味をもつ企画立案と同時に、学生周知方法を検討し参加者増加に期待したい。
- ・授業とは違う学びを深める場となるよう今後も期待したい。

3-2-2 学生生活支援

各施設において、運用の見直しや工夫、改善がみられ対応しており評価できる。学生食堂に関しては満足度の向上には至っておらず、引き続き問題点の改善が求められる。

- ・学生食堂のキャッシュレス化は学生サービスにつながっているが、依然として混雑の解消には至っていない。更なる対策が必要である。
- ・購買局については、リニューアルに伴い品揃えの充実と他店には無い魅力ある店舗を期待する。
- ・健康管理センターの周知や情報共有などに関しては継続的な実施を希望する。

3-2-3 研究・対外活動

課題に対して適切に取り組み、点検・評価が実施されている。

- ・文化・服装形態機能研究所においては 3D スキャナでの継続的な計測データ収集、企業との共同研究や商品開発、障がい者衣料研究の取組は評価できる。計測データを活用したデータの分析や検証、研究発表等が実施できるよう、人員補充など環境を整える必要がある。
- ・障がい者衣料研究は多様性に対応しており、社会的な貢献も非常に大きな価値がある。

4 学修支援

● 4-1 キャリア支援

4-1-1 就職活動支援・就職状況

4-1-2 企業開拓・関係強化

4-1-3 キャリア教育

就職率の維持、向上に向けた様々な取組により（求人情報、インターンシップ情報の配信、学生相談、履歴書・エントリーシート添削、面接練習等）就職活動の意欲向上や支援につながっていることは評価できる。就職活動の早期化対応として、下級年次からの就職指導強化が充実してきており、企業見学会やインターンシップ等は企業・職業理解の機会となっている。学生への個別対応を行い満足度の高い就職支援の継続が期待される。

- ・新たな企業開拓とともに、学生とのマッチング機会を増やすことが必要である。
- ・留学生の就職に関して更なる内定獲得につながる取組に期待する。
- ・学校全体で（下級生や学科担当者を含め）課題意識を持つことにより、就職率の向上につなげていくことが必要である。

● 4-2 資格取得支援

4-2-1 資格取得率・状況

検定試験の周知や運営は適切に実施されており、試験当日の欠席者が減少したことは評価できる。しかし、受験者数、合格者数の増加につながる対策は継続して検討する必要がある。

- ・任意の受験であるため、検定取得の目的が学生に理解されなければ受験者増加は難しい。
- ・検定により各自が自分のスキルレベルの確認を行うことで、就職に必要な学習内容を認識することができるため、周知方法の検討を行う必要がある。

● 4-3 学生相談体制

多様な学生に合わせた柔軟な相談体制を整え、臨機応変に対応している。学生の状況に合わせてオンラインを活用した相談など支援の強化に努めていることは評価できる。

- ・学生が通いやすい学生相談室であることが重要であり、適した対応がなされている。
- ・障がいへの配慮を希望する学生は増えており、留意すべき項目である。
- ・教員へのコンサルテーションを行うことにより、教員の学生指導の向上が図れるため、継続して取り組んでいく必要がある。

● 4-4 経済支援・健康管理

4-4-1 奨学金

4-4-2 健康診断

新給付型奨学金、貸与型奨学金制度ともに、奨学金の取り扱いが複雑化している中、学生に対して手続き方法や書類の取り扱いなど適切な説明が実施されている。健康管理、健康診断についても適切な運営が行われている。

- ・奨学金を必要とする学生数は年々増加しており、今後も学生に分かりやすい説明会を実施し、保護者の方にも安心してもらえる環境づくりが必要である。
- ・健康診断の欠席者対応等が高い受診率につながっている。

● 4-5 卒業生・社会人への支援

4-5-1 すみれ会（卒業生の会）

4-5-2 再就職・起業支援

すみれ会会員管理方法の見直しにより、管理業務の一元化と効率化につながることは期待できる。今後、同窓会の協力により在学生の就職や既卒者の転職に結びつくよう、連携強化の仕組みづくりが必要である。

- ・すみれ会の認知度向上が未だ不十分なため、更なる取組が必要である。
- ・多くの卒業生を輩出しているため、これまで以上のすみれ会の活性化に期待する。
- ・時代の変化に対応する取組が始まった。今後の推移に注目したい。

5 教育活動

● 5-1 学校のカリキュラム編成

5-1-1 文化服装学院のカリキュラム編成状況

各科の人材育成に合わせたカリキュラム編成の見直しやコースの設置がなされ、課題設定と点検・評価が適切に実施されている。

- ・教育課程編成委員会の外部委員などの意見を参考に、企業の現状に即した実践的なカリキュラムの検討がなされ、適切な授業内容が実施されている。
- ・カリキュラムの見直しは毎年実施されている。時代に合わせた改善のため、絶えず検討が必要な項目である。

● 5-2 課程のカリキュラム編成、授業研究

5-2-1 服飾専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

各科、各学年において特色あるカリキュラムとなるよう、改善に取り組んでいる。教育効果の向上にむけて、各科各専攻が授業時期、内容等を検討し実施している。

- ・ 服装科 1 年、2 年の繋がりを意識し、学生に寄り添ったカリキュラムが実施出来ている。各学年を通して教育効果が上がっており、学生数増加につながっている。
- ・ 課程の教育目標に合わせたカリキュラムの検討がなされ、適切に授業運営されている。
- ・ インターンシップやコラボレーションなどにより、学生の自主性や学習意欲向上、実践的な学びの場につながっており評価できる。

5-2-2 ファッション工科専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

課程の特色でもあるアパレル業界の職種に合わせたカリキュラムが各科ごとに検討され、適切に授業運営されている。企業連携授業やコラボレーション等により、実践的な学びの機会が得られている。

- ・ 工科専門課程の特徴である産学連携の取組が各科、活発に行われている。
- ・ 各科における産学連携の取組において、実践的な物づくりを体験することが学生のスキルアップと職業理解につながっており、就職活動への意欲向上につながることを期待したい。

5-2-3 ファッション流通専門課程のカリキュラム編成状況、授業研究

ファッション流通産業に関わる各職域の専門知識と技術を有した人材育成に対応した人材教育を各科が行っており評価できる。2 年次の各コースの職種に合わせたカリキュラムでは重視されるスキルの向上を目指した検討がなされている。産学連携の商品企画、マーケティングにおけるプロモーション、販売、スタイリング、イベント制作等、実践的な授業も実施し学生のスキルアップにつながっている。

- ・ ドロップアウト対策として、早期から面談を密に行う等の時間を設けた結果、ドロップアウトの減少につながったことは評価できる。

5-2-4 ファッション工芸専門課程のカリキュラム編成状況、授業内容

課程の教育目標に合わせたカリキュラムの検討がなされ、適切に授業運営されている。

企業とのインターンシップ、コラボレーションを通して実践的なスキルの習得や職業理解につながっている。多様な学生に対して個別対応を行う等、きめ細かい指導でサポートを行うことで、コンテストでの成果にもつながっており評価できる。

- ・ 学生数が減少傾向にあるが、各科がコラボレーションやコンテスト等で様々な活動で結果を出している。今後も外部と連携しながら工芸各科の必要性を社会に認知させていく必要がある。
- ・ コラボレーションやコンテストの受賞が学生のモチベーション向上につながるため、積極的に取り組むことが望まれる。

5-2-5-1) II 部服装科のカリキュラム編成状況、授業研究

5-2-5-2) II 部ファッション流通科のカリキュラム編成状況、授業研究

II 部の限られた時間の中で教育効果を向上させるためのカリキュラム編成が検討され、適切に授業運営がなされている。就職を意識したカリキュラムや卒業生の特別講義などの実施により、就職活動の意識向上につながったことは評価できる。

- ・ II 部の学生数減少については対策の検討が必要である。

5-2-6 関連科目の授業研究

各関連科目において学科担当者が各科の特徴を捉え、専門科目の授業内容や授業方法を工夫し、運営がなされている。現在の学生の動向を考慮した題材の選定や学習意欲の向上につながる課題設定と取組が実施されている。

- ・ 昨年度より実施しているコンテスト対策ゼミで行われた服飾デザイン論、ファッションデザイン画が主体的な学びの実現に近づけたことは評価できる。
- ・ クラス担当者と打ち合わせを重ね、時代に即し、ファッション業界に直結した授業運営が実施できている。

● 5-3 学外授業

5-3-1 学外実習の状況

5-3-2 インターンシップの状況

5-3-3 海外研修の状況

5-3-4 コラボレーションの状況

5-3-5 コンテスト活動の状況

学外授業（研修・インターンシップ・コラボレーション等）で多くの学びの機会を提供し、それが学生の視野拡大、さらには就職意識の向上にもつながるなど良い影響を与えている点は評価できる。海外研修は希望者全員が参加可能な体制の検討が必要である。

- ・ 多くのコラボレーションが実施され学びにつながっていることは評価できるが、学生のメリットを考慮したコラボレーション内容の精査も必要である。
- ・ コンテスト活動についての周知やサポートが適切に実施されている。コンテスト対策ゼミの成果にも注目したい。

● 5-4 学校行事

5-4-1 行事の状況

年間を通して実施される様々な学校行事において、教職員の連携により、滞りなく実施されていることは評価できる。学生の自主性を尊重したイベントにおいては、課程を越えた学生同士の交流により貴重な経験を積むことができている。引き続き企画内容の検討・改善を行いながら継続することが望まれる。

- ・ 学校行事に関しても、学生の実践的な学びとなるよう、継続して取り組む必要がある。
- ・ 学生が主体的に活動でき通常授業とのバランスが取れるよう、内容の検討が必要である。

● 5-5 課外活動

5-5-1 学友会（在校生の会）

授業以外の学生の学びや経験の場として取組がなされており、部活動も含め、学生同士の交流の場になっている。学友会委員研修会の参加率が向上したことは評価できるが、実施内容やプロセスにおいては検討が必要である。学友会活動の活性化やリーダーシップの育成に向けて、引き続き学生が主体的となって活動できる会となるよう取組の検討が必要である。

● 5-6 教育・成績評価

成績評価管理の徹底、評価名簿提出の徹底、成績証明書への転記期間の検討が課題として設定され、点検・評価が適切に実施されているが、成績評価のデータ管理方法については遺漏の無いよう、管理システムの見直しの検討が必要である。

- ・ペーパーレス化の積極的な取組に期待する。

● 5-7 退学者への対策

例年取り上げられている退学者への対策ではあるが、教職員の取組により、退学者の減少という結果につながった事は評価できる。退学理由の中で学業不振の割合が増加しており、その対策が今後の課題となるため、継続して検討する必要がある。

- ・各科、個人個人への対応を強化することにより、退学者の減少につながっている。
- ・早期対応が望まれるため、教員、学生相談室の連携が不可欠である。
- ・退学時期は学期末の9月と3月に集中しており、それらを踏まえた対策の検討も必要である。

● 5-8 学生募集

5-8-1 学生募集の状況

5-8-2 広報活動

総合型選抜入試、指定校推薦入試など入試制度の改革や動画、SNSの強化により入学者数が増加したことは非常に評価できる。今後も時代に即した対応を検討し、入学者数の増加につなげる必要がある。

広報活動の中でも来校イベント、接触型ガイダンスの実施は効果が出ており評価できる。

- ・今後の18歳人口減少に対応した広報戦略を検討する必要がある。
- ・入試制度改革の浸透後を見据えた広報戦略を引き続き検討する必要がある。
- ・大学志向や服飾分野志願者の減少など厳しい状況だが、専門学校の強みである実技や実習充実の訴求力を生かした広報活動に期待したい。

● 5-9 国際交流

5-9-1 留学生の受け入れ状況

5-9-2 合作校・提携校の状況

5-9-3 外部団体・機関との連携

留学生については法令に基づいた適切な管理が継続されている。合作校（東華大学服装学院、魯美・文化国際服装学院）での授業は教員の協力のもと遂行できたことは評価できる。海外提携校との交流も国際交流センターと連携し実施されている。学校運営上、留学生の受け入れは必要不可欠であるため、適正校の選定から外れないよう留学生の適切な管理の継続が必要である。

- ・これまで以上に海外からの学生を取り込むことを意識した交流をする必要がある。教員の技術力の高さ、学生作品のレベルの高さを発信することが学校の PR にもなり学生募集につながるのではないかな。
- ・留学生の留年・休学の原因追求と、改善につながる対応を継続的に検討する必要がある。
- ・合作校における課題として、出張教員数、授業スケジュール、環境整備等があげられる。生活面の改善は評価できるが、出張人員、出張時の代講人員に関しては検討が必要である。
- ・すみれ会海外留学サポート奨学金においては、在校生への周知をさらに行い学修支援につながることを期待したい。

自己点検・評価委員会 内部評価会議

内部評価委員（敬称略・順不同）

相原 幸子

朴澤 明子、吉村 香、早刈 千加子、木本 晴美、朝日 真

浜田 法子、小林 克也、渡井 邦重、熊谷 江理

以上